

全国がん登録室における安全管理措置教育のeラーニング導入とその効果

山口大学医学部附属病院
医事課 診療情報管理係 がん登録室
佐々木 愛

◆きっかけと目的

令和2年度都道府県全国がん登録室外部監査を受審し、診療録センターとがん登録室の大部屋併用だったため、職員への安全管理措置教育を重点点として指摘された。これまで全国がん登録室安全管理措置の教育として、登録室責任者がアナログでテストを実施していたので、改善策としてeラーニングの導入をし、より効率的な教育体制を目的とした。

◆方法

講義スライド作成(令和4年度から動画も作成)理解度確認のためテスト問題をmoodleに入力(10問出題)[平成31年度国立がん研究センターから配布されたテスト問題を使用]

繰り返し学習できるように解説も各問題ごとに入力。moodleを利用し、テストランダム出題設定などを行い係内研修を準備。令和3年度では初めて診療情報管理係全体への全国がん登録安全管理措置テストを実施したため、令和4年度ではどのくらいの職員が理解を深めたかアンケート調査も行った。

◆結果

eラーニングによる学習はいつでも・どこでも・繰り返し受講することができ、時間的制約のみならず受講しやすい環境の提供でき、安全管理措置教育に隔たりがなかった。令和4年度から参加者へアンケート調査を行い、回収率は6割であった。テキスト資料や動画が役に立ったと思うが89%、テスト内容が普通だと思った方が22%、やや難しいが67%、難しいと思った方が11%であった。前年度と比べて資料がわかりやすかったかの問いにはわかりやすかったが56%、どちらともいえないが44%であった。

◆結論

全国がん登録室の安全管理措置教育をeラーニングで導入することによって、人的労力の軽減、時間的制約の軽減が省人化・省力化につながった。また職員全体の安全管理措置教育の一元化が可能となり問題や研修資料の管理もしやすくなった。診療情報管理士として、全国がん登録実務担当者でなくても情報セキュリティマネジメントとして組織に必要な危機管理教育だと改めて痛感した。

Eラーニング導入の経緯

- 課題** 外部監査指摘事項で職員への安全管理措置教育を重点点として指摘された。
- 原因** 診療情報管理係が診療録センターとがん登録室の大部屋併用だったため安全管理措置のセキュリティが甘かった。
- 経緯** これまでアナログでの教育体制だったのでMoodleを使って診療情報管理係職員全体の教育システムを構築し、セキュリティ強化を図る。
- 効果** 教育の一元化に成功。

これまでで行ってきたがん登録室職員への安全管理措置教育

- ☆これまで、がん登録室管理責任者ががん登録室職員に小1時間講習⇒テストを行っていた

アナログでの教育体制

方法 受講方法

受講者はmoodleサービスへ山口大学メディア基盤センターの発行したユーザー名とパスワードでログインし、講義テキスト資料を読む。

テスト実施画面で10問回答後、採点ボタンを押し採点を受ける。

間違えた項目は解説を読み直し、また再度テキスト資料を読んだら、合格するまでテスト受講するように再度受験も可能。

結果1

- 対象者(診療録センター・がん登録室職員)は期間中に全員受講することができた。
- Eラーニングによる学習は、いつでも・どこでも繰り返し受講することができ、時間的制約のみならず、受講しやすい環境を提供でき、安全管理措置教育の隔たりがなかった。

人的労力負担軽減
受講のしやすさ

結果2

令和4年度からアンケート調査実施

- 回収率6割
- テキスト資料や動画が役に立った 89%
- 今回のテストが軽かった 67%
- 前年度の資料と比べてわかりやすかった 56%

考察

人的労力の軽減、時間軽減、省人化、省力化

課題
がん登録実務者以外でも情報セキュリティマネジメントの必要性についてもっとわかりやすい資料作りが必要。

日本がん登録協議会
第31回学術集会

COI開示
筆頭演者名:佐々木 愛

当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。